

“ふじのくに”士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

事業番号	24	事業名	子育て支援施設整備費助成
------	----	-----	--------------

1 基本情報

実施日／班名	10月14日 第2班	時間	14:10～15:13
担当課名	健康福祉部こども未来課	事業費	132,493千円

2 判定結果

結果	県民評価者 判定内訳(人)			
県の関与必要 (見直し・縮小)	判定区分	県の関与不要	2	
		県の関与必要	見直し・縮小	18
			現行・拡充	11
	判定理由	結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由（人、複数回答有）		
		事業の効率化を図りコストを縮減すべき		10
		県の役割(市町、関係団体、県民等との役割分担)を見直すべき		9
他の事業との関係を整理すべき		7		
サービスの水準や対象者を見直すべき		3		
事業効果の把握・検証方法や目標の設定方法を見直すべき		3		

3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

【県の関与不要】

- ・時代が変わりニーズが多様化してきた時代。少子化で既存の学校等を活用していくべき。
- ・必要性がよく分からない。助成は国が行い、県は必要ないと思う。

【県の関与必要（見直し・縮小）】

- ・現代社会の中、児童クラブは進めて欲しい。
 - ・学校で行えば良いのではないかと思う。既存のものを利用していいかと思う。
 - ・子育て支援ということを考えれば、この事業は必要と思う。児童館、放課後児童クラブ、放課後子ども教室など、経費が削減できるのであれば統一を考えたほうが良いと思うが…。保護者負担の平均月額 7,544 円は少し高すぎるように思う。
 - ・待機児童数→減少、子どもの減少、学校空教室の増、相方のバランスでどうにかならないか。
 - ・施設運営の民間委託も考慮し、効率化を図っても良いのでは。
 - ・創設(単独設置)→改修にウエイトを置き待機児童数削減を優先させては。地域の集会所、公民館等を有効活用する方向へ誘導する事も考えてみては。→少子化傾向、利用されない設備施設の増加防止。子育て支援(ハード(集まれる場所、設備等)、ソフト(指導員教育等))→両面から市町と連携を。
 - ・児童クラブと子ども教室が分かれている必要があるのか？
 - ・窓口一本化を是非してほしい(学校、公民館)。放課後児童クラブ＝厚生労働省、放課後子ども教室＝文部科学省→どちらかで所管を統一した方がより良い事業が展開できるのでは？
- 実施場所は小学校の空き教室でやった方が親も子どもも安心。

- ・整備費は必要性よりも補助金支出がありきの事業に感じる。約 49 年(半世紀)に渡りの整備事業は、整備実績(P226)を更に過去 10 年分の定員に対する活動実績の効果の確認をして欲しい。特に厚労省と文科省の対立の解消を含めて。
- ・所管によって役割や目的が変わってくるということだが、利用者にとっては利用しやすい実情、ニーズに合った存在であって欲しいと思われる。
- ・放課後児童クラブの児童が、環境整備が進むことで孤立しないか？
- ・放課後子ども教室と放課後児童クラブは一緒でも良いと思う(水曜日だけなので)。実際、子どもの学校で1年間通ったが、次の年は通う気がしないという子どもが多いのが事実です。
- ・少子化が進む中で、新しく児童館等の施設を作る必要性は大きくないのではないか。既存の施設(公民館のような施設)を有効活用できないのか。
- ・学校の空室を利用すれば？ 利用料をもっと安くできない？
- ・児童クラブそのものは必要ですが、児童館を増やしても住みやすいとはつながらないと思います。
- ・文部科学省と厚生労働省の壁を現場ではずす努力を。小中学校の空教室の利用を積極的にして欲しい。複合施設として小中学校、幼稚園と合わせて。

【県の関与必要（現行・拡充）】

- ・育成という目的なのだろうが、育児放棄、虐待に対する一次的受皿としての機能を有すると考える。ただし、本来ならば子ども達が主体となり自由に遊ぶことが好ましい。現在、育児に熱心な家庭とそうでない家庭では宿題の減少もあり、自宅での学習時間に雲泥の差がある。この差異を埋めるため指導・助成は必要だと思う(宿題をへたに増やすと塾へ行く子どもが倒れてしまう)。また、学校でそのままといじめがあった場合に逃げる場所がない。子どもへのフォローが必要。各市町村のサービス均一化、分配の管理が必要。ただし、新規の建物建設は慎重に。
- ・共働きの家庭を支援するために整備を進めてください。施設改修などの費用については、無駄がないかよくチェックをして補助金を負担してください。こども未来課の事業の主たる成果指標内容が、23、24と同じ内容であり、H24年度の目標、記載がない。目標のない計画はない。個別の事業ごとに成果指標を立てるべきである。
- ・放課後児童クラブへの支援については、現行・拡充すべきと思います。一方で「子ども教室」についての県のスタンスを見直すべきと思います。
- ・改善策として、児童クラブと放課後子ども教室の一体化が望ましいのではないか。目的に応じた場所選び→市町への連携(既存の公民館、コミュニティーセンターなど、市立図書館などの開放)
- ・充実してください。放課後児童クラブと子ども教室を統一せよ。
- ・放課後児童施設を有効利用できるように、土日も利用できるよう親が安心して仕事ができる支援を。
- ・利用する、利用しないに関わらずキャパシティは用意するべきと思う。
- ・夏休み等、子ども達が利用する人数の幅が見込める場合、職員の増員を検討して欲しい(児童館)。
- ・児童館は特に必要ないと思います。空いている施設は、探せば何かしらあるだろうと思う。あるものを使うことで使うお金は節約できるのでは。
- ・待機児童が十何年たっても解消しないのは、県の怠慢である。県職員の人件費を削って予算を生み出し、待機児童を解消するくらいの努力が必要である。